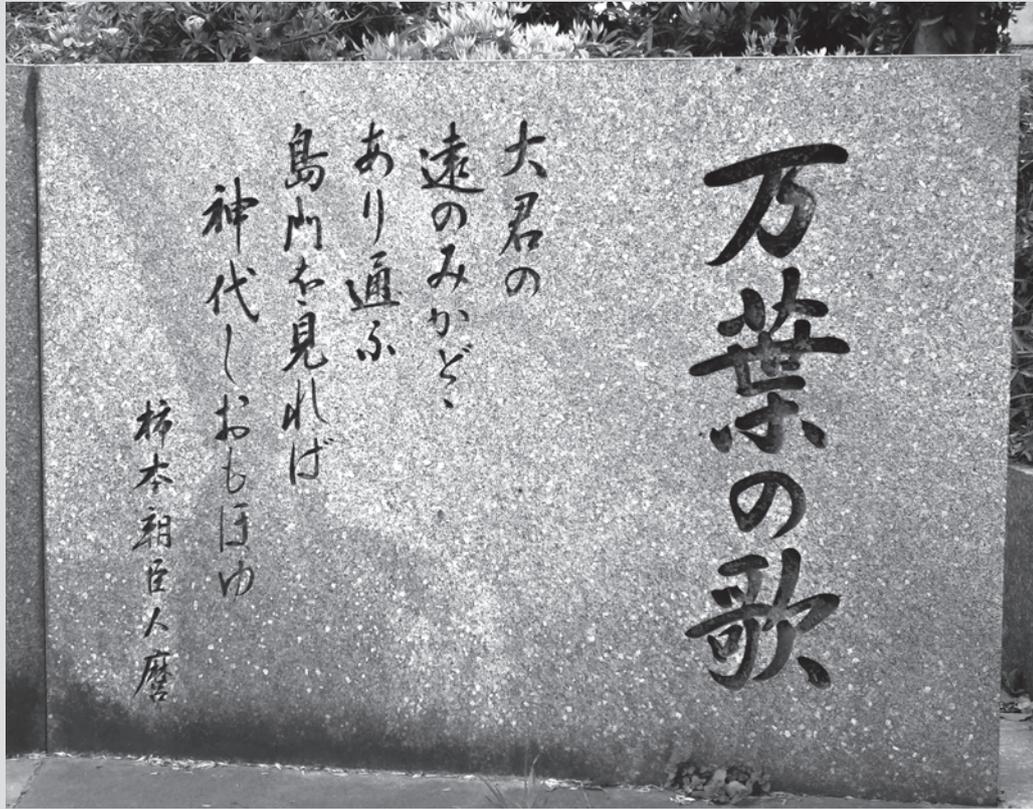
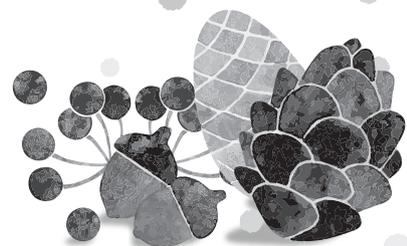


寺子屋だ

※題字 / 森川芳聲



北九州市八幡西区黒崎地区 岡田宮境内

歌碑のこころ

大君の

遠のみかどと

あり通ふ

島門を見れば

神代しおもほゆ

都を遠く離れた大宰府政庁を目ざして、常に行き来する関門海峡が見えてきた。その先を眺めやれば、九州を舞台にした伊邪那岐伊邪那美二神の昔が偲ばれることだなあ。

※詳しい解説は2頁に掲載しています。

もくじ

- 2 巻頭言 志明館サマースクール …… 山口 秀範
- 3 ミャンマーと日本③ …… 守田 剛
- 4 偉人レポート「島田 叡」 …… 曾谷 昌広
- 6 サマースクールを終えて …… 梶原 愛
- 8 偉人の言葉③ …… (寺子屋モデル)
- 9 民間人から見た教育現場⑦ …… 小田村直昌
- 10 伊達政宗「馬上少年過ぐ」をめぐって① …… 廣木 寧
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 歌碑のこころ(8) 編集余録

「志明館」サマースクール

代表世話役 山口 秀範

十六名の小学生で開講

設立を旨とす小中一貫校「志明館」の、言わばパイロットプロジェクト（試行案件）として、今夏七月二十二日から三週間に亘りサマースクールを実施しました。一〜三年の小学生対象で二十名の応募があり（実際の参加は十六名だった）、

	月	火	水	木	金	土	
8:30	道具の整理・連絡等						親体活 子験動
9:00	寺子屋						
10:00	プログラ ミング	体育的遊 び	プログラ ミング	かるた遊 び	農業 体験		
11:00							
12:00	昼 食						
13:00	パズル式脳トレ						
13:30	FUNFUN English	絵画 クラフト	FUNFUN English	福岡 しつとう	唱歌		
14:30				読書	論理 エンジン		
15:30	おやつタイム						
15:45	自主学習（夏休みの宿題）						
16:45	チャレンジタイム						
17:45	振り返りと帰りの準備						

博多学園（福岡市東区水谷）の施設を拝借して連日朝から夕刻まで子供たちの歓声が響きました。

盛り沢山のカリキュラムの中で、子供たちの一番人気はアイパッドを駆使して各人が独自のゲームを作成する「プログラミング」でした。子供たちの未知の手法への好奇心と吸収力には目を瞠るばかりです。

毎朝の「寺子屋」では偉人伝・素読暗誦に取り組み、「北里柴三郎は朝から夜にかけてずっとけんきゅうをつづけたからこんな大はっけんをした」、「1〜126まででんのうへいかがつづいていることをはじめてしりました」などの感想を残しています。

競い合い

皆が熱中したのは「カルタ遊び」です。「親子で親しむ新百人一首」を使って歴史上の名歌を取り合うのですが、ここでも初めて触れる和歌を覚える速さには驚かされます。最終日の発表会に優勝賞品を出す予告し、二人チームで対戦しましたが、悔し涙を流す場面も見えました。「脳トレ」でも画一的授業を避け、各自

のペースで級を上げて行きました。集中力を高め、持続が求められると共に、下級生に負けたくないという対抗心が向上心に直結することも明らかにまりました。

食べ物をめぐって

三週間子供たちに接するうちに、家庭のしつけや日頃の学校生活を垣間見る場面に度々出会いました。

先ずは、椅子に腰かけても足を上げるなど概して行儀が悪い。食事の好き嫌が多く、おかずに入れたままひたすらご飯だけを食べる。鉛筆や箸の持ち方を習った形跡がない等々、心配な光景が広がります。

中でも唾然としたのは、農業体験の野菜収穫です。トマトやピーマンをちぎってゴザの上に集めましょうという時に、立ったままで不要なものを捨てるが如く、複数の子が野菜を放り出しました。いのちあるものを丁寧に扱おうと注意しても、嫌いなトマトを触る事自体が苦痛だということです。

週末の志賀島バーベキューに、生きた魚をさばく体験もありました。パックになった切り身しか見たことのない子供たちには貴重な機会だったに違いありません。

自然に触れ万物のいのちを感じる体験を継続的に与えることの緊急性と困難さを肝に銘じました。

本来の子供

サマースクール初日に自己紹介を促しました。何と、三分の一ほどが「出来な」、「恥ずかしい」、「したくない」と言い続けたのです。しかもそれが一年生よりも二・三年生に多かつたことから、小学校の教育も問われます（幼稚園児は概ね、はきはきと答えるのです）。

戦国時代の終り頃来日したポルトガルの宣教師ルイス・フロイスの残した『日歐文化比較』の一節が思い出されます。

ヨーロッパの子供は青年になつてもなほ使者となることはできない。日本の子供は十歳でも、それをはたす判断と思慮において、五十歳にも見られる。

われわれの子供は、大抵公開の演技の中でははにかむ。日本の子供は恥づかしながら、のびのびしてゐて、愛嬌がある。そして演ずるところは実に堂々としてゐる。

現代と四百数十年前と、どちらの子供が本来の日本人なのでしょう。今回参加した子供たちの家庭は物心共に平均をはるかに上回っているでしょうが右記の如しです。人間教育の大切さを改めて思う夏の事業でした。

「寺子屋」教科書

「志明館」用に編集を進めて来た道徳教科書「寺子屋」三部作が完成しました。本号折り込みで紹介していますので、是非一家に一セットお求め下さい。